



武蔵野市長

【対談特集】

松下玲子通信<号外> 2020/9/15

松下玲子を応援する会

E-mail: reiko@matsushita.name

FAX: 0422-50-0697

〒180-0006 武蔵野市中町 1-2-3 ミタカハイム 501

市長へのインタビュー

聞き手: 松下玲子を応援する会 世話人代表 宮子あずさ

[宮子] 今回の松下玲子通信「市政報告」ですが、<号外>として、新型コロナ対策を中心に、市民の立場からお尋ねしていきたいと思います。どうぞよろしくお願いします。

■ 子育て支援： 待機児童ゼロ、子どもの 医療費無償化、休校 措置について

[宮子] 在宅ワークが増えても、医療、流通関係を中心に、必ず出勤しなければならない市民がいます。保育園の役割は本当に大きいですね。待機児童の状況を教えてください。



対談は2020年8月に行われました

[市長] 本年4月1日現在の武蔵野市の待機児童はゼロとなりました。市長選挙時の公約のひとつである「待機児童ゼロ！」を実現できました。ご理解とご協力をいただきました全ての皆さまに感謝の気持ちでいっぱいです。4月現在で空いている園もあり、年度途中の職場復帰や新たに就業される方々へ子育て就労支援ができると考えます。また、今後は、兄弟姉妹同園など希望する保育園を選択できるようにしたいと思います。ゼロ達成後に待機児童が発生する自治体もあるため、今後も人口増加等に注視して取り組みを継続します。また、新型コロナウイルス感染が収束しない現状をふまえ、感染防止対策を行った上で、可能な限り保育園を開きたいと思います。

[宮子] 次に公約に掲げた子育て支援のうち、子どもの医療費無償化はいかがでしょう。

[市長] 様々な議論を経て今年度から始まった武蔵野市第六期長期計画の中に「子どもの保健を向上させ、子育て家庭の経済的負担を軽減して必要な医療を安心して受けられる環境を整備するため、所得制限なく無償とする仕組みを検討し、制度の導入を目指す」と明記することができました。制度の導入に向けて、引き続き努力します。

[宮子] また、この間の休校についていかがいます。2月27日安倍首相からの突然の全国一斉休校要請で、5月26日の学校再開まで約3カ月間に渡る長期休校、その間、不要不急の外出自粛で友達と会うこともできませんでした。休校による子どもたちへの影響をどう見えていますか。

【市長】 長期一斉休校は様々な課題があると考えます。私は、一斉休校は極力避けるべきだと思っています。学校は学習の場であるとともに子どもたちが互いに学び合い、触れ合いながら成長する場です。休校時、使える情報機器（パソコン、タブレット、スマホ）がない家庭には市から貸し出し、家庭学習を支援しました。しかし、家庭学習支援が情報機器の貸与で全て解決するという訳ではありません。ひとりで学習するか、保護者が在宅できるかどうかでも、子どもの学習に影響があります。今後もやむを得ない場合があるかもしれません。プリント配布やオンライン活用の取り組みは学校によって違いがあったという意見もいただいております。児童生徒1人1台の情報機器の貸与等、今後に備えて準備を進めています。

■ コロナ対策（その1）：PCR 検査体制の拡充について

【宮子】 38度台の高熱が続いても、PCR 検査をすぐに受けられなかった、という声も聞きます。必要な検査を受けられていない現状があるのではないかと心配です。

【市長】 どこで検査できるのか？自分は検査できるのか？といった不安が市民から寄せられています。保健所を持たない武蔵野市で、どうしたら安心できるのか、検査数を増やせるのか、この間ずっと考え続けてきましたが、「武蔵野方式」で必要な人が「いつでもどこでも何度でも」検査できる体制を目指します。検査の結果陽性者を確定し、感染拡大防止に努めること、人権侵害や誹謗中傷が起きないように、個人情報を除いた上で、できるだけ情報公開することが重要であるという結論に至りました。そこで、現在 PCR 検査を行っている武蔵野市 PCR 検査センターや救急病院に加えて、新たに武蔵野市医師会の会員で PCR 検査を行う医療機関に対して、検査体制の整備を行うための支援を行います。そして、市内での PCR 検査数を『1日最大500件』と大幅に増やし、市民が安心して検査を受けられる体制にします。

【宮子】 武蔵野市内で発生した感染の情報を報道で知りました。市のサイトには出ていない情報でしたので、情報把握ができていないのか不安に思いました。

【市長】 それは、保健所が武蔵野市にないからです。感染者の情報は保健所が把握していますが、市に保健所がなく、法的権限もなく、独自に情報公開や分析を行うことは残念ながらできないのです。ここが各区に保健所がある23区との大きな違いです。多摩地域で保健所設置市は中核市の八王子市、町田市のみです。23区と比較し、多摩格差ともいえる状況です。

The screenshot shows a news article from Nippon Economic Newswire. The headline is '東京都武蔵野市、PCR検査能力10倍へ医療機関に補助金' (Tokyo Musashino City, PCR testing capacity 10 times increase, subsidies to medical institutions). The article date is 2020年8月26日 19:41. The text states that Musashino City is increasing its PCR testing capacity to 10 times the current level (500 cases per day) and providing subsidies to medical institutions to implement testing. It also mentions that the subsidies will cover the purchase of equipment like refrigerators for storing samples. The article is dated August 26, 2020, at 19:41.

新聞などに取り上げられました

■ コロナ対策（その2）：経済支援など様々な支援策について

[宮子] 武蔵野市が他市に先駆けて都の休業補償から漏れた事業者への感染拡大防止緊急支援金を支給するとの新聞報道を見て「さすが松下さん！」と拍手しました。

[市長] 私は、市長選挙に立候補した際「豊かな財政を市民のために使う」を掲げました。新型コロナ感染の影響が大きい今こそ、人々の暮らしを守るために、必要な支出をしなければなりません。また、緊急時ですから、全部にできないからやらないということではなく、やれるところをやる、やるべきことをやるという考え方です。

この間苦境にある医療や中小事業者、個人の営業や暮らしの一助にと、市独自の支援の仕組みを作りました。インフラ事業者支援、テナント家賃支援金などの中小事業者への支援や国民健康保険税の減免、コロナ感染休業の場合の傷病手当金創設などコロナの影響で減収になった市民への支援、保育士など市の財政援助出資団体の臨時職員の休業補償を6割から全額補償するなどの対策が、こ

れにあたります。数多くの支援策がありますので、ぜひ市のホームページをご覧ください。

[宮子] これらの施策についての市民の反響はいかがでしたか。

[市長] 市独自の支援策については、十分に検討をしており、議会でも全会一致の賛成を得ております。中小の事業者の方からは「金額はともかくその心意気がうれしい」との声をいただき、早期に実現できたことは良かったと思いました。

[宮子] 今後の支援策については、お考えはありますか。

[市長] 世界保健機構(WHO)が緊急事態宣言を発表した1月31日に、武蔵野市でも「新型コロナウイルス感染症対策本部」を設置しました。7カ月が経過し、様々なことがありました。吉祥寺商店街は自粛期間中なのに人出が多いとテレビや新聞で報道され、私も副市長も感染防止や外出自粛を求める横断幕を持って商店街を何度か歩きました。追加の経済支援策を求める声もありますが、自然災害やこれからのインフルエンザ流行期でのコロナ対策など見通せないことが多くありますので、状況に応じてよく考えたいと思います。



自ら横断幕を持って街を回り、感染防止を啓発
＜2020年4月、吉祥寺サンロード商店街にて＞



■ コロナ対策（その3）：コロナ禍での心と身体のケア

【宮子】 私は訪問看護の仕事をしていますが、自粛による生活への悪影響が気になっています。特にお年寄りや、体力低下など問題が目立ち始めました。

【市長】 それは本当によくわかります。私自身は、コロナの影響で土日祝日の公務やイベントがほとんど中止となり、その時間を使って自転車で市内をまわり、市民の皆さまと直接お話させていただいています。その際、外出しなくなったことで、心身ともに弱っていらっしゃる高齢の方が多いと感じています。まさに自粛生活の影響ですね。高齢の方々は重症化の恐れもあり外出しにくい状況です。感染防止対策を行いながら、心や身体に栄養を与え、楽しみながら日常生活を営めるように市としても新たな取り組みをも考えたいと思います。

■ 最後に：人権と平和が守られる武蔵野市を

【宮子】 今、新型コロナウイルス感染者や医療者への差別が指摘されますが、社会のあり方に関わる、根深い問題だと感じます。

【市長】 まず、現状で、感染者や医療者への差別が問題になっているのは、とても悲しいことです。今の社会が本当に人権を大事にしているかが問われているのです。

【宮子】 基本的人権を謳う日本国憲法ができたのは戦後。まだ歴史は浅いのですね。

【市長】 75年前、戦争が終わりました。改めて強く思うことは、「終戦は、今年50歳になる私が生まれる、たった25年前のことであった」ということです。戦争は多くのかけがえのない大切な命を奪いました。戦争は決して遠い昔のことでも、遠い外国のことでもなく、日本中で実際に起きていたことであり、二度と絶対にしてはならないと心から思います。私は、「人権が守られ、平和で自由で持続可能な社会を未来へつなげたい」との思いで、市長として市政運営を行い、政治家として発信し行動しています。戦争も核もない平和な世界を武蔵野から、皆で共に力を合わせて実現させたいと思っています。

【宮子】 今日はありがとうございました。

【市長】 例年開催している8月の市政報告会は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止いたしました。感染が収束し、皆様とお会いできる日を待ち望んでおります。本日は、ありがとうございました。



両市の平和活動の取り組みについて対談する
田上長崎市長(右)と松下山下市長
＜2019年9月、長崎文化ホールにて＞